

## 校内研修について

平成24年度より、幼児児童生徒の「確かな学力」などの「生きる力」を育むために「キャリア教育の視点を踏まえた『確かな学力』の向上」「『わかる授業』の構築による『確かな学力』の向上」「学力向上マネジメントによる『目標管理型評価システム』」の三つの柱を施策の中心と位置付けた『夢・にぬふぁ星プランⅢ』がスタートした。

これらの施策の実施に向け、各学校においては、学校評価等により学力向上に係る目標を明確にし、全校体制で課題解決を目指した取組の充実が求められている。

本県幼児児童生徒の課題とされる「確かな学力の向上」と「基本的な生活習慣の形成」は、着実に成果を上げつつも、まだまだ課題は山積と言わざるを得ない状況である。これらの課題を解決するために、各学校においては、新推進プランⅢで示された方向性を踏まえ、学校の実態に応じた具体的な施策の推進に努めなければならない。

これらの3つの視点と、本校がこれまでに取り組んできた成果や課題を整理し、平成25年度の本校の「学力向上の具体的施策」を明確にし、実践の充実を図っていきたいと考える。

本校は平成21年度より「確かな学力の向上を図る授業の工夫」（「教えて考えさせる授業」「読解力の育成」）の研究を進めて5年となる。平成23年度までの3ヶ年で「教えて考えさせる授業」の学び方の基礎を積み上げ、全校体制で学力向上の定着化を図ってきた。

### 【一年次】（H21年度）

「教える場面」の指導に焦点をおき、わかる喜びを実感できる「わかる授業」の道筋が明らかにされた。

### 【二年次】（H22年度）

「考えさせる場面」の指導に焦点をおき、深化問題の開発や指導方法の工夫改善が充実した。

### 【三年次】（H23年度）

本校児童の課題である「読解力」の育成に焦点をあてました。課題を自分の力で読み取り、解釈し、自分なりの考え方・解決のしかたを導こうとする切実感を身につけさせることが必要となる。そのための具体的な手立てを明確にし、共通認識のもと、実践化を図ってきた。

### 【四年次】（H24年度）

「読解力の育成」の二年次として、「読み取る力・書く力・伝える力」の育成に努めた。この年は大幅な人事異動のため、これまでの指導体制の継承に努め、新たな研究課題の導入や研究の深化発展は停滞せざるを得ない状況となる。

### 【五年次】（H25年度）

平成24年度全国学力・学習状況調査の結果から国語AB問題が、県学力到達度調査の結果から国語B問題が県平均を下回っており、課題が見られた。国語の基礎的・基本的な知識・技能の習得においても指導が必要であるとともに、文章だけでなく様々なテキストを読み取り、自分の考えとして表現する読解力の育成が必要である。

そこで本年度は、国語科の「読むこと」領域の「説明的な文章」の指導を通して、「読むこと」の基礎・基本の定着を図るための授業の工夫・改善をし、学習過程において言語活動を意識した取り組みを行うことで、読解力の向上を図ることができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

#### 1 研究主題

読み取る力を育む授業の改善  
～国語科の「説明的な文章」の指導を通して～

#### 2 研究目標

- (1) 説明的文章の学習における基礎的・基本的な知識・技能の習得を図り、的確に内容を読み取る力を育成する。
- (2) 説明的文章の学習過程で、言語活動を意識した学習活動を展開し、「読み取る力・自分の考えを書く力・伝える力」を育成する。

#### 3 研究の仮説

- (1) 説明的文章の学習において、各学年で読み取るために必要な基礎的・基本的なスキルを身に付けさせることで、説明的な文章（図・絵・グラフを含む）を的確に読み取る力育成することができるであろう。
- (2) 説明的文章の学習の指導過程で、意図的に自分の考えを書いたり伝えたりする言語活動を行うことにより、説明的な文章を読み取るための知識・技能の習得が図られるとともに、読解力を育成することができるであろう。